

その2

— 沖縄ブロックの社会資本整備に係る地域の将来の姿(案)の策定について —

沖縄総合事務局では、社会資本整備重点計画法（平成十五年法律第二〇号）に基づき地方ブロックの重点整備方針として、「沖縄ブロックの社会資本整備に係る地域の将来の姿(案)（以下、将来の姿(案)）」を策定しました。

この将来の姿(案)の策定にあたりましては、平成十五年七月に開催しました「沖縄における国土交通政策に関する懇談会」において、中馬国土交通副大臣、稲嶺県知事をはじめとする地方公共団体

や地元経済界の代表、学識経験者からご意見をいただくとともに二月二日から二月十三日においてパブリックコメントを実施し、意見を募集したところです。

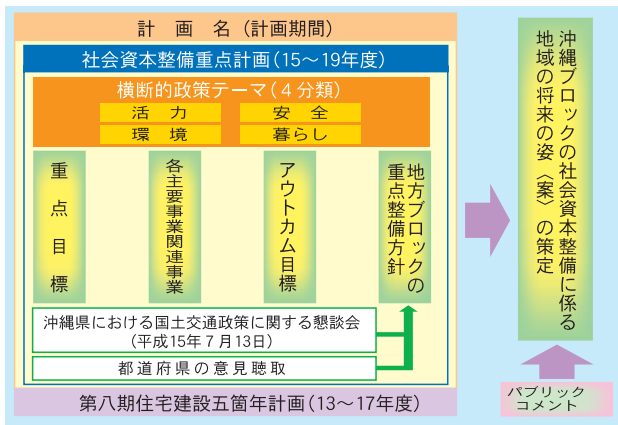
この将来の姿(案)では各事業間の連携の強化を図るため、「活

力」「安全」「環境」「暮らし」の4つの横断的政策テーマを設け、それら4つの重点分野に事業の重点化、集中化に取り組むとともに、事業の成果を明確にするため「アウトカム指標」を明示し、長期計画事業の着実な達成を図ることとして左図のように取りまとめています。

●産業経済面での伸び悩みと高い失業率

産業経済面での伸び悩みが見られ、若年層を中心に失業率も高い状況にある沖縄では、自立的発展を可能とする基礎的条件の整備は十分とはいえない状況にあります。

●増加する国内外からの入域観光客



沖縄ブロック社会資本整備に係る地域の将来の姿(案)

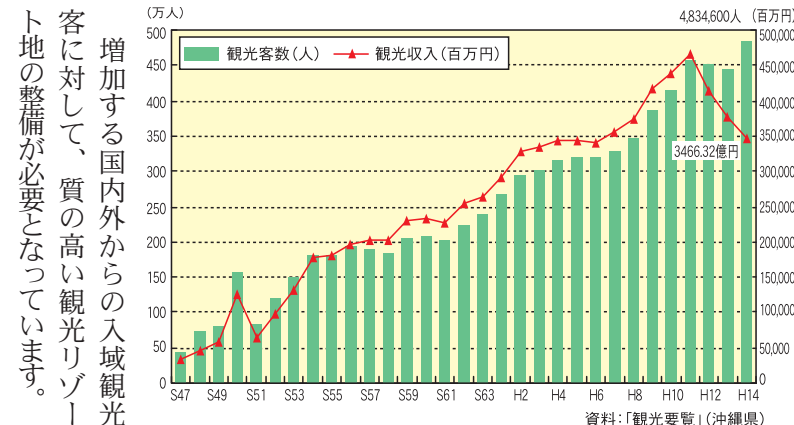
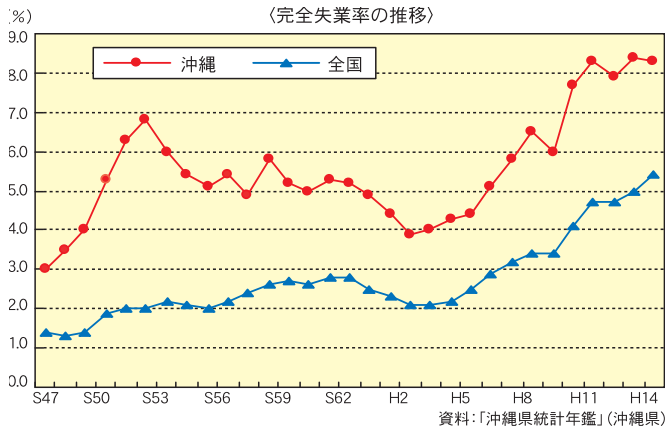
- ① 沖縄ブロックの現状と課題
- ② 沖縄ブロックのめざすべき将来の姿・10～15年後を想定
- ③ 沖縄ブロックにおける重点事項（10～15年後を想定）  
●重点目標達成のための主要施策、主要事業を記載
- ④ その他資料(将来の姿を達成するために必要な主要施策、主要事業等についてマップ、表等で整理)

事業の効果を増大させるため一体として実施される事業・ソフト施策

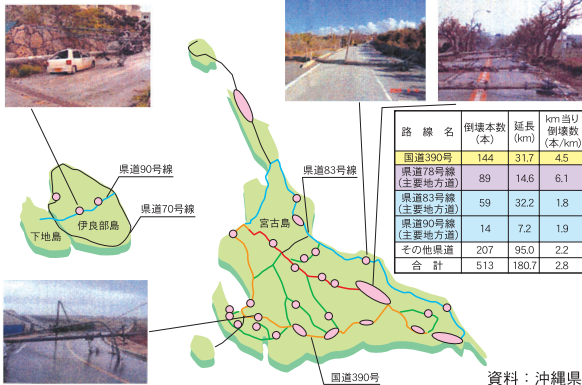
官庁営繕	区画整理	市街地再開発	ボランティアサポートプログラム等のソフト施策
------	------	--------	------------------------

（対象事業分野）

道路	交通安全施設	空港	港湾	航路標識	公園・緑地
水路	河川	砂防	地すべり	急傾斜地	海岸事業



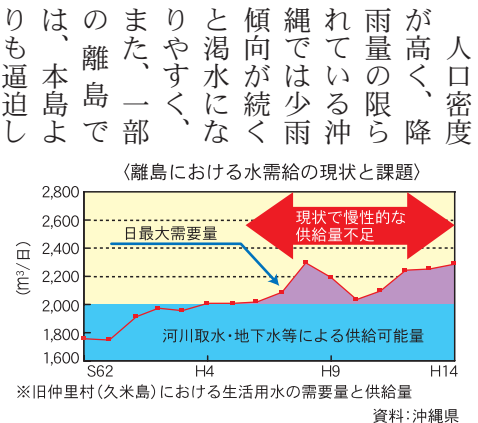
〈台風14号(H15)による宮古島の被害〉



台風常襲地帯である沖縄では、浸水被害や高潮、高波浪による海

### ●台風常襲地帯である沖縄

た水需給となっています。



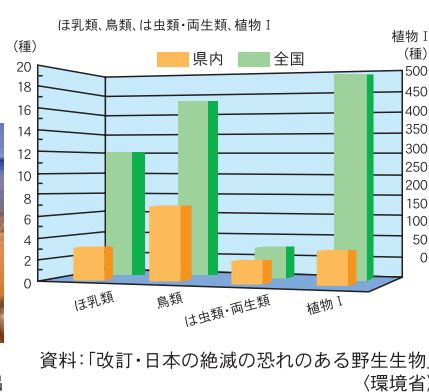
②自然災害などに対する安全性の確保  
●渇水になりやすい沖縄  
人口密度が高く、降雨量の限られている沖縄では、少雨傾向が続くと渇水になりやすく、また、一部の離島では、本島よりも逼迫した水需給となっています。

### ▼珊瑚を食い荒らすオニヒトデ



▲河川、海岸環境を悪化させる赤土流出

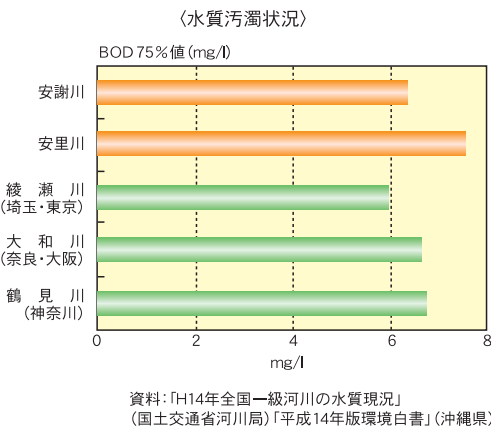
〈沖縄に生息する「絶滅危惧1A類」〉



●本土とは大きく異なる固有の自然環境・生態系

③沖縄特有の自然環境との共生  
●船舶事故やテロの脅威、増大する交通事故  
岸施設被害、強風による建物の損壊や電柱の倒壊など、大きな被害が度々発生しています。また、沖縄の周辺海域では、過去にも大きな津波災害に見舞われています。

●年々増え続ける廃棄物  
年々増え続ける廃棄物に対して、島嶼県という地域特性を踏まえた方策が求められています。



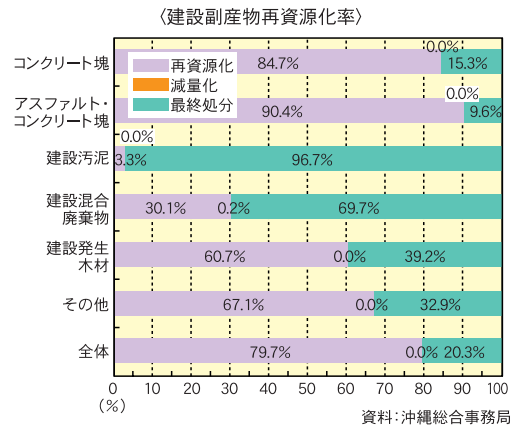
●都市化に伴う河川・海域の水質悪化  
沖縄では、都市化による人口の集中や産業の発展などに伴い、生活排水や事業排水が増加し、河川・海域などの公共用水域の水質悪化が懸念されています。

●都市化に伴う河川・海域の水質悪化  
沖縄は、亜熱帯・海洋性気候の下、数多くの貴重な動植物が存在するなど、本土とは大きく異なる固有の自然環境・生態系を有しています。しかしながら、近年各種経済活動に伴う森林の伐採や赤土流出などにより、環境の改変が進んでいます。

④特性を活かした安らぎと活力ある地域の形成  
豊かな自然環境にも恵まれた魅力ある地域を形成するとともに、わが国の経済水域や海洋資源の確保などの観点からも、重要な役割を果たしています。



●広大な海域に散在する島々と独自の風土・文化・自然環境  
沖縄は広大な海域に散在する大小百六十の島々から成り、これらの島々は独自の風土・文化を持ち、



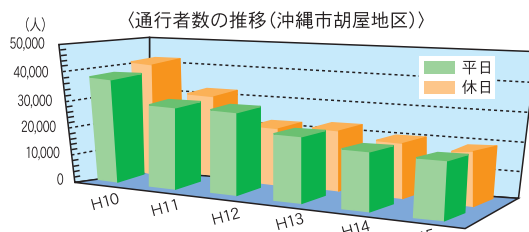
●戦後の混乱期に無秩序に市街地が形成された沖縄

沖縄では、戦後の

混乱した時期に住宅が次々に建設され、無秩序に市街地が形成されたため、住環境の悪化や交通混雑など多くの都市問題が発生し、中心市街地も空洞化しつつあります。

二 沖縄ブロックの目指すべき将来の姿

沖縄ブロックの目指すべき姿とは、沖縄振興計画にも謳われているように、①アジア・太平洋諸国に近接しているという「地理的特性」、②世界に誇れる美しい自然・景観を有するという「自然的特性」、③各地域が独自の個性的な風土や文化を有するという「地域的特性」を踏まえながら、自立した持続的発展のための基礎条件を整備し、豊かな地域社会を形成するとともに、わが国ひいてはアジア・太平洋地域の発展に寄与する地域として整備を図り、「平和



資料：「沖縄主要商店街通行量調査報告書」（沖縄商工会議所）

で安らぎと活力のある沖縄県を実現する」ということです。

第二章では、この目指すべき将来

来の姿の実現に向けて、第一章で述べた様々な課題の解決に取り組む、必要となる社会資本整備を重

点的・効率的に実施していくための具体的内容を示しました。

### 地理的特性

アジア・太平洋諸国に近接している

### 地域的特性

各地域が独自の個性的な風土や文化を有している

### 自然的特性

世界に誇れる美しい自然・景観を有している

### 課題

自立的发展を支える産業の振興、国際交流拠点の形成等

自然災害や事故・テロに対する安全性の確保等

沖縄特有の自然環境との共生や循環型社会の形成等

市街地整備や離島の生活環境基盤の整備など、安らぎと活力のある地域の形成等

### 将来像

平和で安らぎと活力のある沖縄県の実現

## 沖縄ブロックの社会資本整備に係る地域の将来の姿

### 活力

自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり

- ・幹線道路等の整備による道路交通の円滑化
- ・空港・港湾の整備による人・物の交流の拡大
- ・国内外企業の立地支援
- ・質の高い観光・リゾート地の形成

### 安全

安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり

- ・安定した水資源の確保
- ・水害等災害に対する安全性の確保
- ・陸・海・空の交通に対する安全性確保

### 環境

沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創出

- ・河川・海域の水質保全
- ・自然環境・地域環境の保全・再生・創出
- ・廃棄物の循環再利用
- ・公共交通機関の利用促進

### 暮らし

特性を生かした安らぎと活力ある地域づくり

- ・市街地の再構築
- ・ユニバーサルデザインに基づく地域づくり
- ・離島における交通や生活基盤等の整備
- ・住民参加による公共施設の整備管理
- ・コスト構造改革



三 沖縄ブロックにおける重点事項  
 二章で示した沖縄ブロックの将来の姿に対して具体的な重点事項を次のように定めました。

また、事業の成果目標として、アウトカム指標を定めました。代表的な指標は、下表のとおりです。

## ■ 自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり

- ① 幹線道路網の整備やIT技術の活用などにより、道路交通の円滑化を図ります。
- ② 空港や港湾などの整備により、人や物の広域的な移動・交流の拡大、効率化を図ります。
- ③ 国内外企業の立地を支援し、地域や経済の活性化を図ります。
- ④ 質の高い観光・リゾート地を形成し、入域観光客数の増加を図ります。

## ■ 安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり

- ① 安定した水資源の確保により、渇水被害を軽減します。
- ② 自然災害に対する安全性を確保するとともに、被害を最小限に抑えます。
- ③ 陸・海・空の交通に関する安全性を確保し、事故やテロの未然防止と被害軽減を図ります。

## ■ 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創出

- ① 発生源対策を進め、河川・海域の水質保全を図ります。空港や港湾などの整備により、人や物の広域的な移動・交流の拡大、効率化を図ります。
- ② 沖縄特有の豊かな自然環境や地域環境を保全・再生・創出します。
- ③ リサイクル資源の効率的な輸送体系を構築することにより、廃棄物の循環再利用を促進します。
- ④ 公共交通機関の利便性を向上させるなど、快適な交通社会を実現します。

## ■ 特色を生かした安らぎと活力ある地域づくり

- ① 既成市街地での都市機能の更新、中心市街地の再構築により地域の活性化を図ります。
- ② ユニバーサルデザインに基づく地域づくりを進め、高齢者や身障者への配慮を目指します。
- ③ 離島における交通基盤、生活環境基盤の整備により、定住環境の確保を図ります。
- (※) 住民参加による地域づくりや公共施設の整備管理を進めます。

## 代表的なアウトカム指標

- 道路渋滞による損失時間  
62百万人・時間/年 (H14) → 59百万人・時間/年 (H19)
- 沖縄の港湾への大型クルーズ船の寄港回数  
約80回 (H14) → 約120回 (H19) → 約240回 (H24)
- ダムによる安定供給可能人口  
約84万人 (H14) → 約88万人 (H19)
- 沖縄本島における台風等による通行規制で孤立する人口  
2,600人 (H14) → 1,900人 (H19)
- 失われた自然の水辺のうち、回復可能な自然の水辺の中で再生した水辺の割合  
約40%再生 (H19)
- サンゴ礁と共生する防波堤の整備延長  
約930m (H14) → 約1,710m (H19)
- 復元・創出された砂浜の面積  
約60ha (H14) → 約90ha (H19)
- 離島における水道用水を安定的に確保する  
約900人分 (H19)

今後の予定  
 今後は、パブリックコメントでいただいた県民の皆様の意見を将来の姿(案)に反映するとともに

に、沖縄県知事に意見をお伺いし、三月末には最終的な重点整備方針を策定し、公表する予定です。